

# 岡山県感染症週報 2026年第22週 (5月25日～5月31日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

## ◆2026年 第22週 (5/25～5/31) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況 (第22週届出分)

こまめな手洗い!

第21週	2類感染症	結核	1名 (10代 女)
	5類感染症	百日咳	3名 (中学生 女1、20代 男1、70代 男1)
第22週	2類感染症	結核	7名 (20代 男1・女1、70代 男1、80代 男2・女2)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O157:20代 女)
		腸チフス	1名 (20代 男)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (70代 男)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1名 (70代 男)
		侵襲性肺炎球菌感染症	3名 (幼児 男1、80代 男1、90代 男1)
		百日咳	2名 (30代 女2)



© 岡山県「ももっち」

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点50、小児科定点28、眼科定点12、STD 定点18、基幹定点5

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で10名 (定点あたり0.20人) の報告がありました。
- 急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で2,062名 (定点あたり41.24人) の報告がありました。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で10名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり0.14 → 0.20人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で2,062名の報告があり、前週とほぼ同数でした。 (定点あたり41.22 → 41.24人)。詳しくは、「[★急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報』](#) をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2026年第22週に1名の報告があり、2026年の累計報告数は22名となりました (2025年の同時期:16名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!』](#) をご覧ください。
4. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#) は、県全体で55名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり3.32 → 1.96人)。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、保育園や幼稚園、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
5. [手足口病](#) は、県全体で60名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり2.61 → 2.14人)。地域別では、真庭地域 (4.00人)、倉敷市 (3.14人)、美作地域 (3.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、夏季に乳幼児を中心に流行し、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発しんが出現します。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは特に注意が必要です。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。

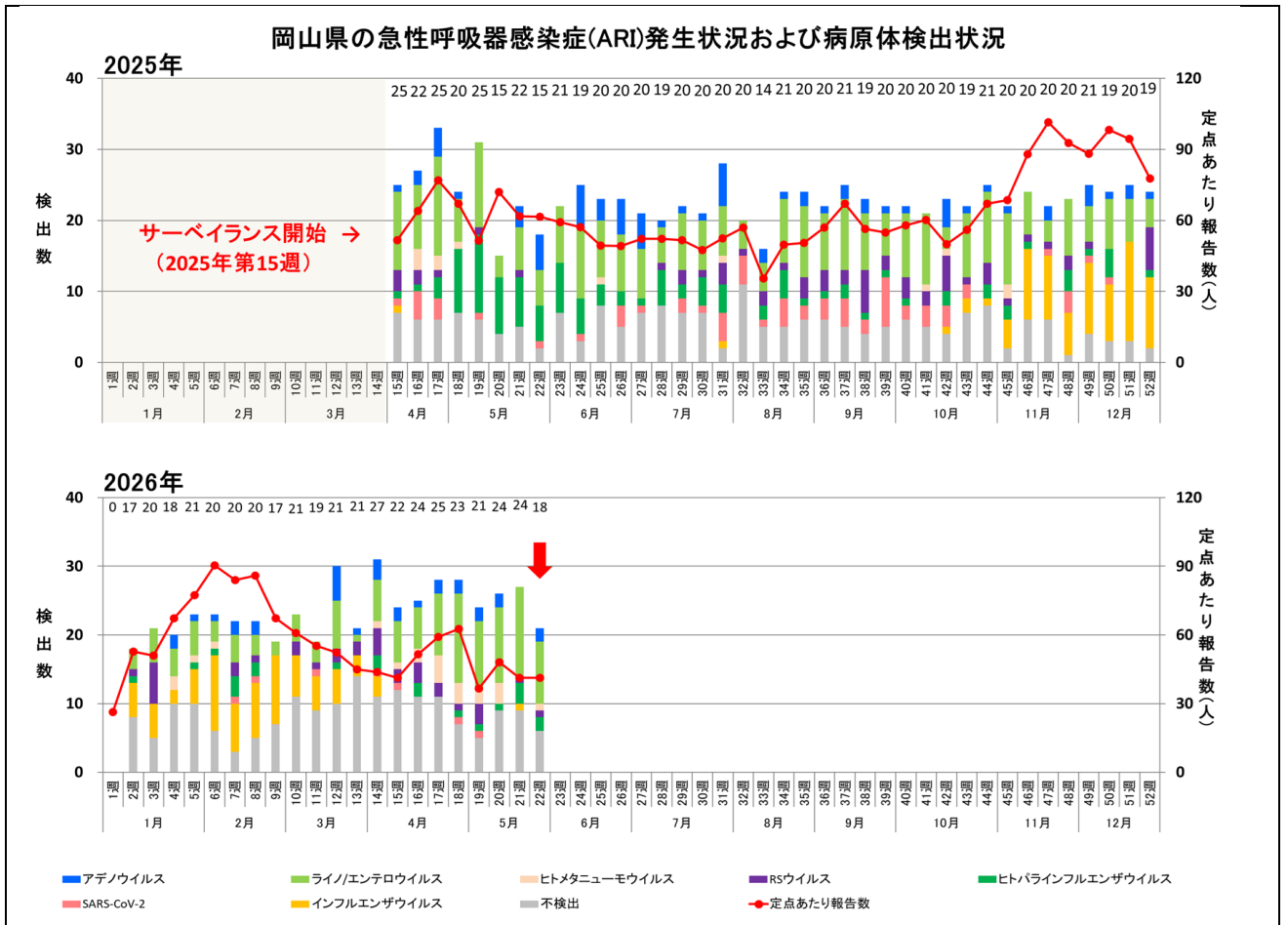
流行の推移

疾病名	定点あたり報告数		推移	疾病名	定点あたり報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.06	0.02	↓	突発性発しん	0.32	0.43	↑
COVID-19	0.14	0.20	↑	ヘルパンギーナ	0.36	0.61	↑
急性呼吸器感染症(ARI)	41.22	41.24	→	流行性耳下腺炎	0.04	0.07	↑
RSウイルス感染症	0.46	0.46	→	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	→
咽頭結膜熱	0.50	0.36	↓	流行性角結膜炎	0.08	0.17	↑
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.32	1.96	↓	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	4.79	5.29	↑	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.32	0.57	↑	マイコプラズマ肺炎	0.40	0.20	↓
手足口病	2.61	2.14	↓	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	0.11	0.14	↑	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.20	↑

【記号の説明】 前週からの推移    ↑ : 増加    → : ほぼ増減なし    ↓ : 減少    増加・減少 : 前週比10%以上の増減

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第22週（5/25～5/31））



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。  
 ※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。  
 ※グラフ上部の数字は検体数を示しています。  
 ※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）  
 ※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,062 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 41.22 → 41.24 人）。地域別では、備中地域（71.60 人）、岡山市（49.61 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

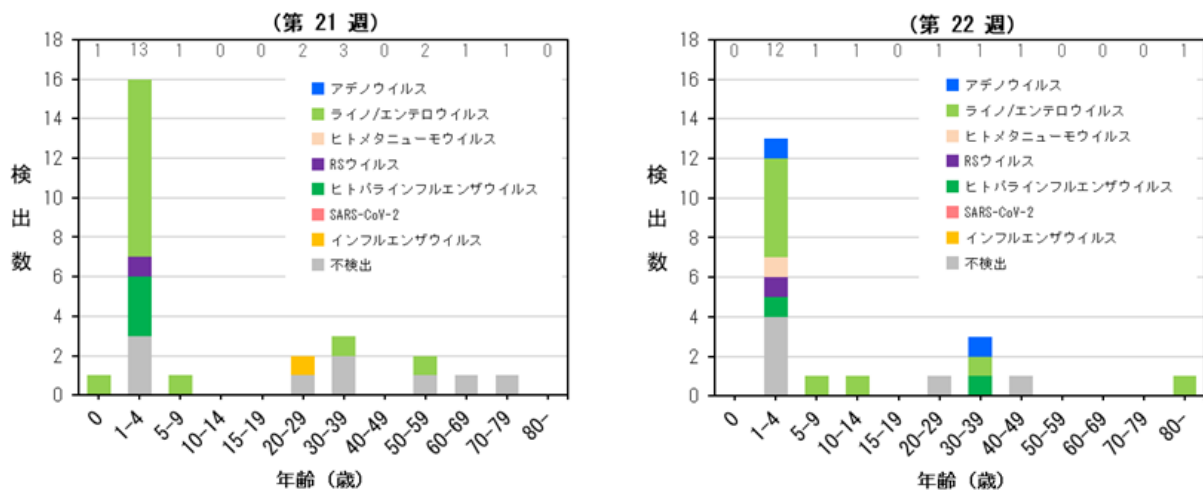
2026 年第 21 週および第 22 週に採取された検体から検出された病原体は 33 株でした（詳細は次表参照）。

【第 21 週および第 22 週 岡山県環境保健センターにおける病原体検出状況】

	第 21 週	第 22 週	計*
検体数 (うち不検出数)	24(9)	18(6)	42(15)
インフルエンザウイルス	1	0	1
SARS-CoV-2	0	0	0
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	2	5
RS ウイルス	1	1	2
ヒトメタニューモウイルス	0	1	1
ライノ/エンテロウイルス	13	9	22
アデノウイルス	0	2	2
計	18	15	33

\* 重複あり

○年齢別病原体検出状況



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。  
 ※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。  
 ※グラフ上部の数字は各年齢別の検体数を示しています。  
 ※急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体定点医療機関数：5 医療機関 (内科定点 2、小児科定点 3)

2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析 \(岡山県感染症情報センター\)](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について \(国立健康危機管理研究機構\)](#)

# 6 / 1 ~ 6 / 7 は『HIV検査普及週間』です！

～ 選べる検査で、広がる安心。郵送・夜間・いつもの窓口。～



レッドリボン  
エイズに対する理解と  
支援の象徴

岡山県は、『受けやすい検査』『戦略的な普及啓発』『関係者の連携強化』を3本柱に、全県を挙げて、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染防止と「いきなりエイズ」<sup>※</sup>防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。その作戦の重点実施期間である「HIV検査普及週間（6 / 1 ~ 6 / 7）」の事業として、6月中に県内の保健所・支所において、啓発や夜間の特例検査を実施しています。

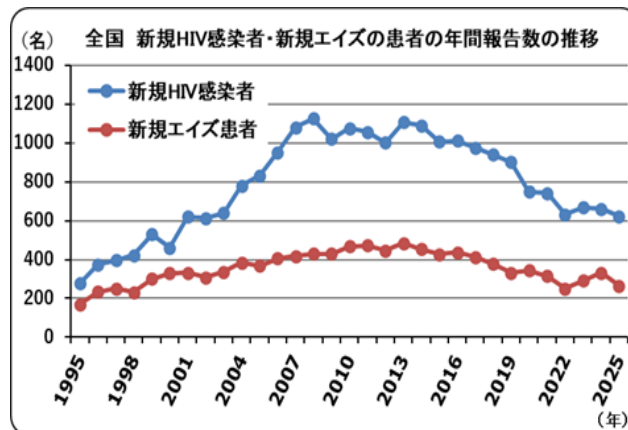
また、岡山県では、今年度新たに郵送検査を開始し、さらなる検査機会の拡大に努めています。検査日時等の詳細はこちらをご覧ください。

→ [【知って防ごう！性感染症とエイズ\(HIV\)】](#) [【郵送検査を受けるときは？】](#)

※「いきなりエイズ」とは、エイズ（AIDS 後天性免疫不全症候群）発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。HIV感染後エイズ発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、気づかずに過ごすため、HIV感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染のひろがりにつながる可能性があり、対策が必要です。

## 1. 全国の新規HIV感染者と新規エイズ患者

2025年の国内における新規HIV感染者と新規エイズ患者（いきなりエイズ）報告数の合計は890件（速報値）であり、2024年（994件）から減少しました。また、新規エイズ患者報告数が新規報告数全体に占める割合は、2024年より減少したものの、依然として約3割で推移しています。保健所等での検査数が鈍化していることにも留意しつつ、今後の状況を注視していく必要があります。

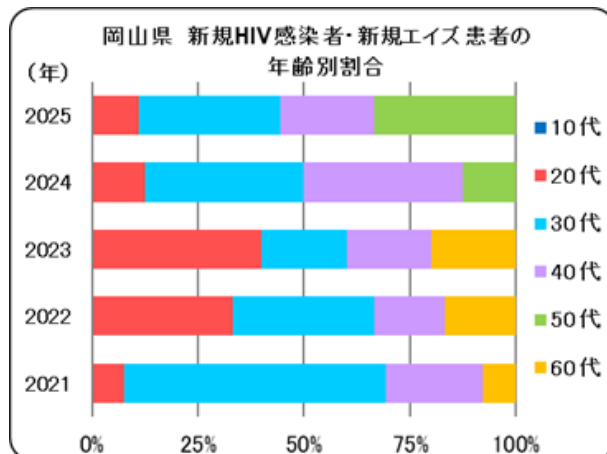
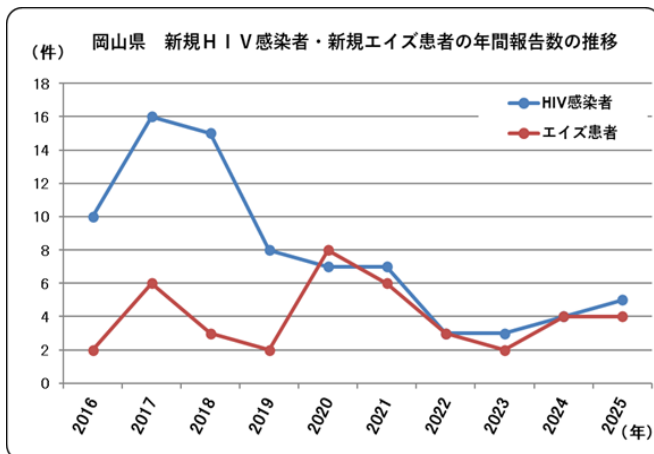


新規HIV感染者 …… HIVに感染しているものの、受診時にエイズを疑う症状がなかったもの。

新規エイズ患者 …… 受診時、すでにエイズを発症しており、「エイズ（AIDS）」患者として報告されたもの（すにいきなりエイズ）でHIV感染者と報告され、後にエイズを発症した症例は除く）。

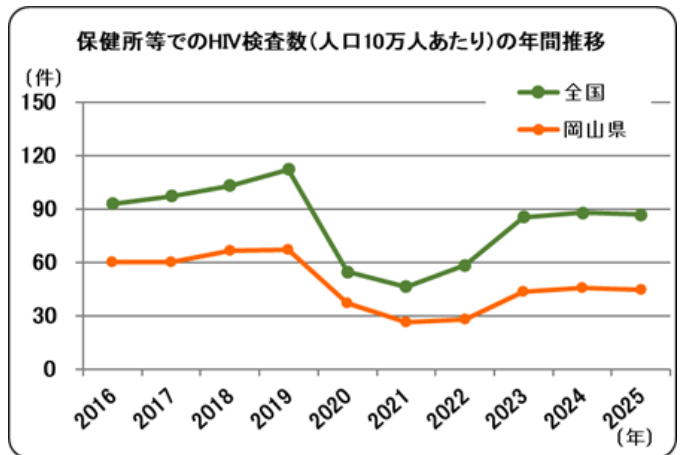
## 2. 岡山県の新規HIV感染者と新規エイズ患者

2025年の岡山県における新規HIV感染者（5名）と新規エイズ患者（4名）の報告数の合計は9件であり、全員男性でした。年齢別では20～50代で発生が報告されています。



### 3. HIV 検査について

岡山県内で自発的に HIV 検査を受けた人の数は、2020 年以降、新型コロナウイルス感染症流行に伴い大幅に減少しており、2023 年は増加したものの、2024 年以降は伸びが鈍化し、2019 年以前の件数には至っていません。HIV に感染してからエイズ発症までは、通常数年程度自覚症状がない時期が続くため、感染していることに気づきにくく、知らないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIV 治療は急速に進歩しており、早期に感染を知り発症する前に適切な治療を開始できれば、定期的に通院しながら今までとほぼ同じ生活を送ることが可能です。HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないとわかりません。早期発見・早期治療がエイズ発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、拠点病院（一律 1,000 円）や保健所（無料・匿名）での HIV 検査を積極的に利用しましょう。



## HIV 検査普及週間に合わせ、岡山県の保健所・支所において、定例日以外や夜間にも検査を実施しています。

- \*検査は無料・匿名で受けることができます。
- \*通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。
- \*正確な検査結果を得るためには、感染機会があったと思われる日から、**8 週間以上経過している必要があります。**
- \*HIV 以外に梅毒などの検査も受けることができます。
- \*詳しくは各保健所までお問い合わせください。

検査日時・予約連絡先はこちらをご覧ください(岡山県疾病感染症対策課 HP)

⇒ [【HIV 検査普及週間中の夜間検査実施日程】](#)  
[【令和8年度検査実施日時】](#)

## 県内9か所のエイズ治療拠点病院でも、検査を実施しています。

- \*いずれの拠点病院でも一律 1,000 円で受けられます(要予約)。
- \*匿名では検査が受けられませんので、ご注意ください。
- \*検査結果は検査を受けた日(約 1~2 時間後)にお知らせします。
- \*正確な検査結果を得るためには、感染機会があったと思われる日から、**8 週間以上経過している必要があります。**
- \*事前に電話での予約が必要です。

## 梅毒の検査も受けましょう！

近年、全国的に梅毒の患者が増えているため、岡山県では、梅毒についても**郵送検査**と保健所における**即日検査**を開始しました。

詳細はこちらをご覧ください

→[保健所検査を受けるときは？](#)

→[郵送検査を受けるときは？](#)



岡山県公式バーチャルインフルエンサー  
みせ 桃音  
御瀬 桃音

# 今週の注目感染症

## ★A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

### ●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

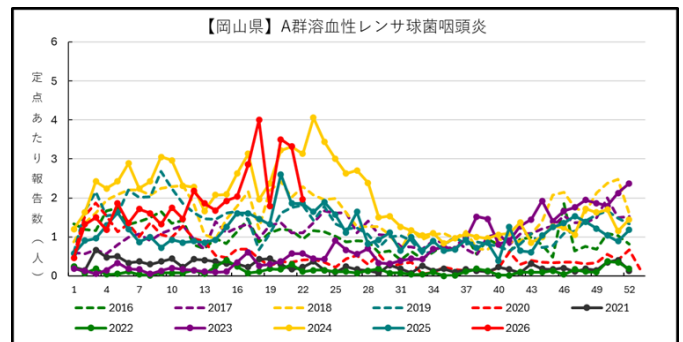
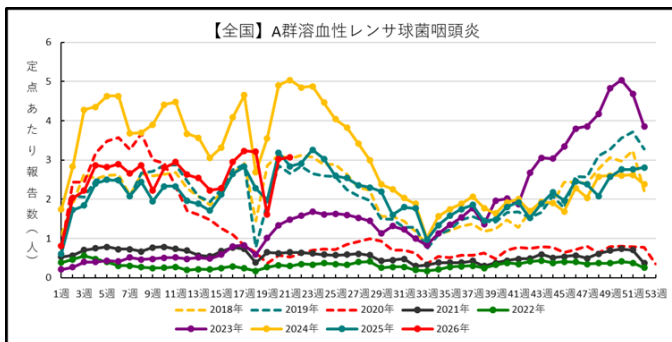
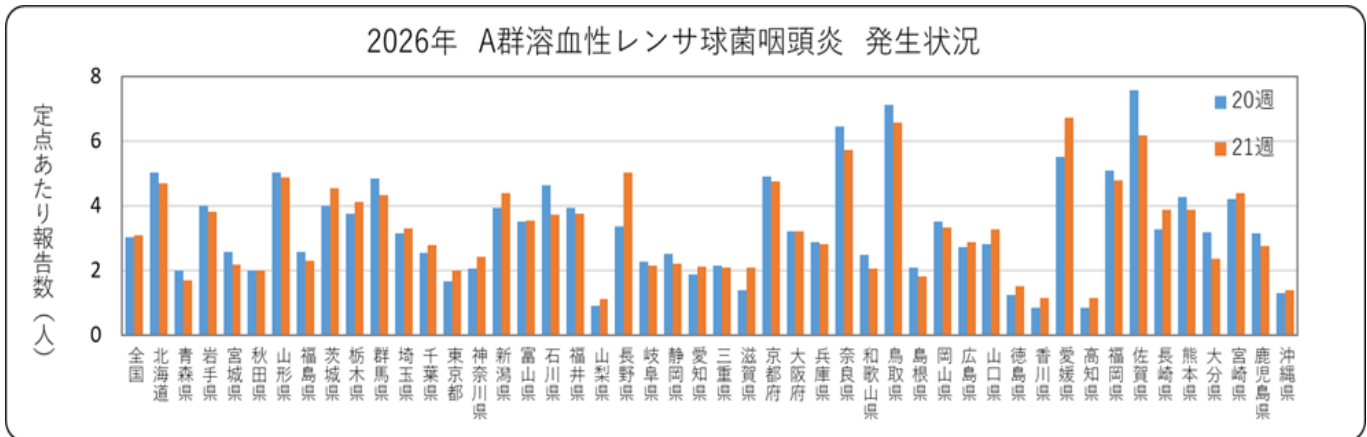
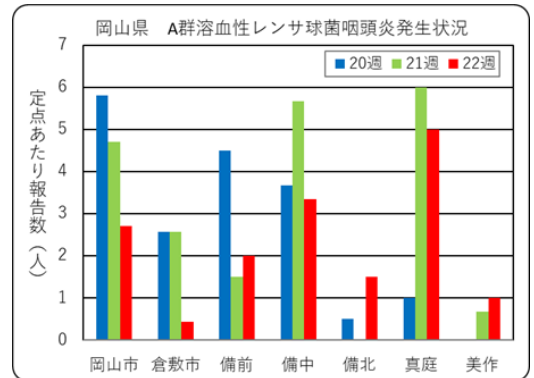
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による呼吸器感染症で、主な感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染です。そのため、家庭や、学校・保育施設などでの感染も多いとされています。

潜伏期は2～5日で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。咽頭炎、扁桃炎のほか、口腔内に点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。通常、3～5日以内に解熱し、主症状は1週間以内に消失する予後良好の疾患ですが、点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現する猩紅熱と言われる全身症状を示すことがあります。その他、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすこともあります。

### ●発生状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の全国の第21週（5/18～5/24）の発生状況は、定点あたり報告数が3.07人であり、前週（3.02人）とほぼ同数でした。都道府県別では愛媛県（6.71人）、鳥取県（6.58人）、佐賀県（6.17人）の順で多くなっています。

岡山県においては4月以降、定点あたり報告数が例年より多い傾向が続いています。第22週（5/25～5/31）は県全体で55名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり3.32→1.96人）。地域別では、真庭地域（5.00人）、備中地域（3.33人）、岡山市（2.70人）の順で多くなっています。



### ●治療・予防方法

治療にはペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合はマクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な感染防止策が効果的とされています。発熱、咽頭痛などの症状がみられる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください⇒[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（厚生労働省）](#)

[A 群溶血性レンサ球菌感染症（国立健康危機管理研究機構）](#)

## 【関連情報】

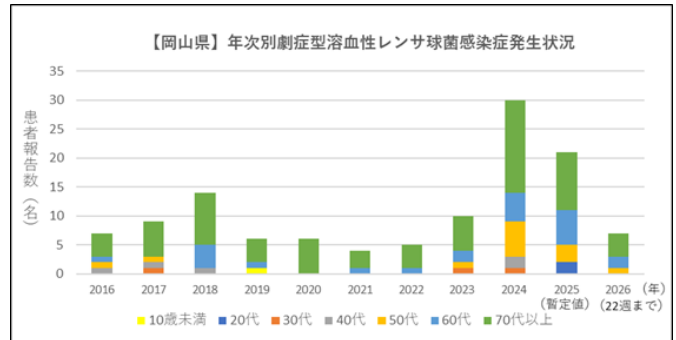
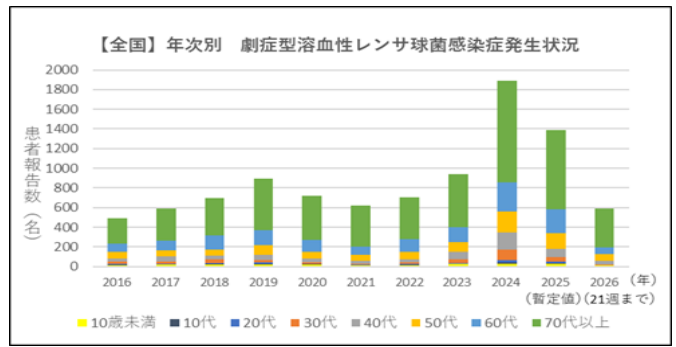
### ★劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主に A 群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症です。突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行しますが、劇症型へと進行する理由はいまだ不明です。年齢別にみると 30 代以上の年代で多く発症しています。

全国では第 21 週に 22 名が報告され、2026 年の累計は 590 名となっています（2026 年 5 月 27 日時点）。

岡山県では第 22 週の報告はなく、2026 年の累計は 7 名となっています。（2026 年 6 月 3 日時点）。

手指衛生や咳エチケット、怪我をした際の清潔な処置等に努め、発熱、咽頭痛や創部の発赤、腫脹、痛みなどの症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。



詳しくはこちらをご覧ください

⇒ [劇症型溶血性レンサ球菌感染症 \(STSS\) \(厚生労働省\)](#)

[劇症型溶血性レンサ球菌感染症 \(STSS\) \(国立健康危機管理研究機構\)](#)

## 国内での麻しんの報告数が増えています

2023 年以降「麻しん（はしか）」の世界的な流行が続いており、海外からの輸入リスクが高まっています。その影響で、国内の報告数も増加（前年同時期比 3.9 倍（2026 年 5 月 27 日時点））しており、引き続き注意が必要な状況です。

### 発生動向

- ・国内の患者は 10-20 代を中心にみられ、医療機関や学校、公共交通機関など、人が集まる場所での感染も確認されています。
- ・10-20 代の患者では、2 回のワクチン接種が済んでいない方や接種歴不明の方が約半数を占めていました。

### お願いしたいこと

- ・麻しんワクチンの 2 回接種が確認できない場合は、医療機関にご相談ください。
- ・麻しんの流行がみられる国や地域に渡航する方は、接種歴を確認し、2 回接種が確認できない場合は、渡航前の接種を検討ください。
- ・発熱、発しん、せき、鼻水、結膜充血など、麻しんが疑われる症状がある場合は、事前に医療機関へ連絡したうえで受診し、渡航歴や接触歴があればお伝えください。

[麻しん（はしか） \(厚生労働省\)](#)

海外渡航者への麻しんの注意喚起（厚生労働省）

[海外へ渡航される方へ](#)

[海外から帰国された方へ](#)



## ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)\***、つづが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効果としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。  
体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

### ★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱](#) (国立健康危機管理研究機構)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#) (厚生労働省)
- ⇒ [つづが虫病](#) (国立健康危機管理研究機構)
- ⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立健康危機管理研究機構)



吸血後の  
フタトゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター  
ウイルス科 撮影画像

## ◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

**岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！**

### ➤ 「清潔」(菌をつけない)

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗淨・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

### ➤ 「迅速・冷却」(菌を増やさない)

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。  
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)

### ➤ 「加熱」(菌をやっつける)

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう(腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します)。

[食中毒予防の3原則](#) (岡山県生活衛生課)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント](#) (厚生労働省)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント](#) (厚生労働省作成チラシ)

## 保健所別報告患者数 2026年 第22週(定点把握)

( 2026/05/25～2026/05/31 )

2026年6月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
COVID-19	10	0.20	3	0.17	3	0.25	-	-	2	0.40	1	0.25	1	0.50	-	-
急性呼吸器感染症	2062	41.24	893	49.61	461	38.42	149	37.25	358	71.60	90	22.50	22	11.00	89	17.80
RSウイルス感染症	13	0.46	6	0.60	3	0.43	-	-	2	0.67	-	-	-	-	2	0.67
咽頭結膜熱	10	0.36	2	0.20	2	0.29	-	-	3	1.00	-	-	1	1.00	2	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.96	27	2.70	3	0.43	4	2.00	10	3.33	3	1.50	5	5.00	3	1.00
感染性胃腸炎	148	5.29	90	9.00	10	1.43	8	4.00	27	9.00	4	2.00	-	-	9	3.00
水痘	16	0.57	8	0.80	2	0.29	-	-	3	1.00	3	1.50	-	-	-	-
手足口病	60	2.14	16	1.60	22	3.14	1	0.50	7	2.33	1	0.50	4	4.00	9	3.00
伝染性紅斑	4	0.14	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.33
突発性発しん	12	0.43	6	0.60	3	0.43	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1.00
ヘルパンギーナ	17	0.61	7	0.70	5	0.71	-	-	2	0.67	-	-	-	-	3	1.00
流行性耳下腺炎	2	0.07	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2026年 第22週(発生レベル設定疾患)

( 2026/05/25～2026/05/31 )

2026年6月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
咽頭結膜熱	10	0.36	2	0.20	2	0.29	-	-	3	1.00	-	-	1	1.00	2	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.96	27	2.70	3	0.43	4	2.00	10	3.33	3	1.50	5	5.00	3	1.00
感染性胃腸炎	148	5.29	90	9.00	10	1.43	8	4.00	27	9.00	4	2.00	-	-	9	3.00
水痘	16	0.57	8	0.80	2	0.29	-	-	3	1.00	3	1.50	-	-	-	-
手足口病	60	2.14	16	1.60	22	3.14	1	0.50	7	2.33	1	0.50	4	4.00	9	3.00
伝染性紅斑	4	0.14	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.33
ヘルパンギーナ	17	0.61	7	0.70	5	0.71	-	-	2	0.67	-	-	-	-	3	1.00
流行性耳下腺炎	2	0.07	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2026年 第22週 2026/05/25～2026/05/31 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
COVID-19	10	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	1	1	2	-	

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	2062	226	1062	321	133	39	41	43	38	50	35	42	32

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	13	3	2	3	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	-	2	6	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	-	-	2	6	6	10	5	8	3	6	3	6	-
感染性胃腸炎	148	2	14	27	16	10	10	13	5	10	3	6	19	3
水痘	16	-	-	1	1	1	2	1	3	-	1	3	3	-
手足口病	60	2	5	30	17	4	-	1	-	-	-	-	1	-
伝染性紅斑	4	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	1	-	-
突発性発しん	12	-	2	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	17	-	4	4	4	3	-	1	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

保健所別

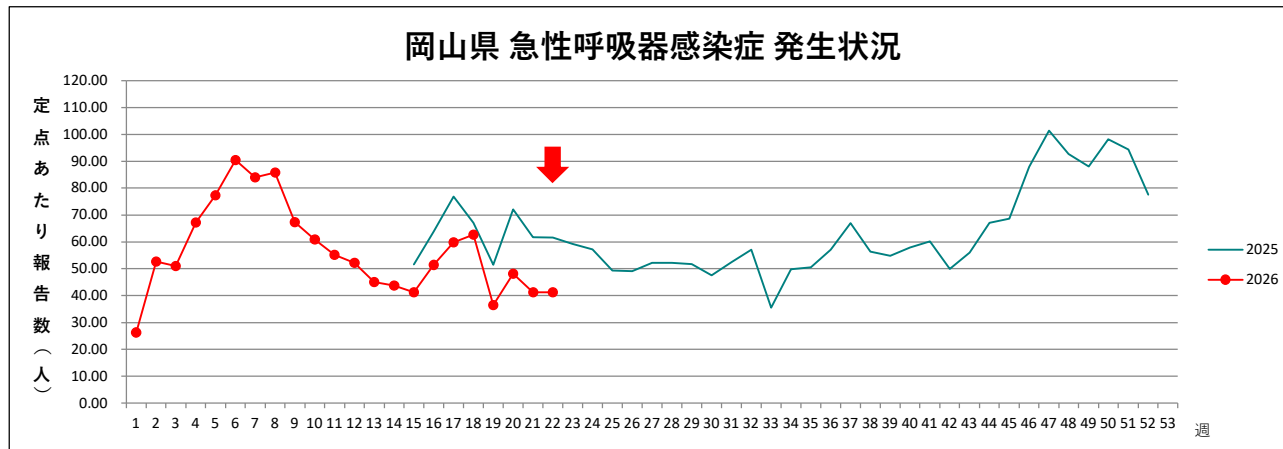
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症 (ARI)	2,062	41.24	893	49.61	461	38.42	149	37.25	358	71.60	90	22.50	22	11.00	89	17.80

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
急性呼吸器感染症 (ARI)	2,062	226	1,062	321	133	39	41	43	38	50	35	42	32

(- : 0)



# 全数把握 感染症患者発生状況

2026年 第22週

分類	疾病名	2026		2025	疾病名	2026			2025			
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	7	101	237	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	22	95
	腸チフス	1	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	4	4	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	2
	エキノコックス症	-	-	-	エムポックス	-	-	-	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	-	-	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサナル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	8
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	-
	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	19
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	癩しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	18	58
	レプトスピラ症	-	-	1	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	2	8	ウイルス性肝炎	-	-	2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	6
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	2	急性脳炎	-	5	14	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	21	後天性免疫不全症候群	-	3	9
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	3	9	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		3	26	55	水痘(入院例に限る。)	-	5	6	先天性風しん症候群	-	-	-
多剤耐性緑膿菌感染症		-	-	-	梅毒	-	65	253	播種性クリプトコックス症	-	-	3
破傷風		-	1	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-
百日咳		2	71	2148	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	5
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-

